登場人物

伊藤　純(7)(22)(24)・女子プロレスラー

伊藤　聡(36)(53)(54)・純の父親

立花　楓(18)(20)(21)・女子プロレスラー

林　琴花(26)(41)(43)(44)・元女子プロレスラーのザ・ストーム

山田　喜一(36)(38)(39)・アイリスのマネージャー

中村　紘子(32)(34)(35)・元 WWA 所属のスターレスラー

立島　涼(19)(21)・女子プロレスラー

柳田ここあ(16)(18)・女子プロレスラー

藤田萌子(19)(21)

藤田達郎(49)・新東京プロレス社長

2009 年 6 月 7 日、新東京プロレスの東京ドーム大会。両親と共に訪れた伊藤純子(7)は、女子マスクレスラーのザ・ストームに心を奪われる。それから 15 年後、母親を亡くした純子は家を飛び出し、風俗店の厨房で働きながらボロボロのアパートで暮らす。純子は客の会話から、既に引退したザ・ストーム改め林琴花(41)が女子プロレス団体アイリスを旗揚げすることを知る。純子は貯金をかき集めて入団テストを受験し何とか合格。同期レスラーの立花楓(21)や偶然出会った謎の若者、奥中清志(26)のサポートを受けてアイリスに人気レスラーへと成長する。しかし純子は次第にプロレスラー以外の仕事に追われ、団体での活動を疎かにしてしまう。自身の人気の陰りを感じた純子は琴花に頼み込み、アイリス初の両国国技館大会のメインで王者楓への挑戦権を勝ち取る。試合は盛り上がりを見せるが、不可解な判定により純子は王者に認定されてしまう。謎の裁定に会場は大荒れとなり、楓は純子に掴みかかって怒り狂う。数日後、事件釈明のための開かれた記者会見でコメントを求められた琴花は、なんとすべての責任を純子になすりつけ、一方的な悪に仕立て上げる。純子はショックのあまり引退を発表。それから 1 年後。アイリスは業界最大手になった一方、純子は小さな工場の作業員として静かに暮らしていた。そんなある日、アイリスのマネージャー山田喜一(37)から復帰を打診された純子は、琴花への復讐と自身の無実の証明のためにカムバックを決意。

同大会の有力スポンサーの息子だった奥中の力を借り、純子はメインイベントの男女混合 6 人タッグマッチに飛び込み参戦を果たす。観客の声援を得た純子は、琴花への復讐を忘れてプロレスを楽しみ、事件について何も言わずにリングを去っていった。

それから 3 年後の東京ドーム控室。純子は自分のテーマソングを聞きながら、メインイベントのリングへと向かう。

1○東京ドーム・会場前の広場
多くのプロレスファンで賑わっている。
入場口に大きく飾られた看板には、「新東京プロレス WRESTLE FEST」と書かれている。
伊藤純(7)は、伊藤聡(36)に手を引かれて人込みをかき分けて歩いてくる。

2○同・会場内
入口で係員にチケットをもぎられ、客席にむかう純と伊藤。
純の目前に、会場を埋め尽くす観客たちとド派手な装飾を施された試合会場が広がる。
目を輝かせる純。
リングでは、女子マスクレスラーのザ・ストームが男子相手に試合中。
自身より大きい男子レスラーのパンチを避け、ハリケーン・ラナ、スプリングボード式のボディプレス、ムーンサルト・プレスと立て続けに大技連発。
純は興奮のあまり観客席の上に立ちあがり、
純「負けるな、ストーム！」
それを見て笑っている伊藤。
大声援の中、ストームは大量のフラッシュに包まれて、トップロープから場外の敵に向かってダイブ。

3○同・会場前の広場(夜)
純は伊藤と手を繋いで歩いている。
ぴょんぴょん跳ねながら、
純「私、絶対プロレスラーになる！」
伊藤「えー、絶対？」
純「絶対！」
伊藤「じゃあ」
伊藤、立ち止まって純子の前にしゃがみ込み、
伊藤「いつか、かっこいいレスラーになって、お父さんをここに連れて来てくれよ」
純「うん！」
伊藤「約束な」
純「約束！」
純と伊藤は指切り。2人で東京ドームを見る。

4○体育館・外観
壁がひび割れている体育館。
看板には手書きで雑に「アイリス　興行」と書いてある。
T「15年後」
「チケット売り場」と書かれた手書きの看板が置いてある机では、おじさんが1人昼寝中。
卓上には大量のチケットが余っている。

5○同・会場内
リング上で中村紘子(32)と立花楓(20)が試合中。
紘子がボディスラム、コーナートップからのスプラッシュを決める。
楓は紘子のスプラッシュを避け、ラ・マヒストラルで丸め込み。
カウント2で返されると、スプリングボード式のコークスクリュー・ムーンサルトを決めて、そのままフォール。
レフェリーの服を着た山田がマットを叩いて、
山田「ワン！ トゥー！」
紘子、体を捻じってフォールを返す。
セコンドについていた純(22)たちがリングサイドでエプロンを叩きながら、
純「楓、こっから！ 負けるな！」
エプロンを激しくたたく純達。
盛り上がるリングサイドとは対照的に、静まり返っている観客席。
座っているのは、老人と親子連れの6人のみ。
誰も試合を見ていない。
X　　X　　X
マットを解体している純たち。
純は腰をさすって立ち上がり、動きを止める。
立花涼(21)はリングポストを2本両肩に担いで、
涼「手を動かせよ」
純、ビクッとして、すぐ作業に戻る。

6○アイリス道場・事務所
ザ・ストーム改め林琴花(40)、机の上に

広がる請求書の山とにらみ合っている。事務所の壁にはトロフィー、賞状、ザ・ストームのマスク、「ザ・ストーム引退！」という見出しが表紙のプロレス専門誌、アントニオ猪木と琴花が握手をしている写真が飾られている。
山田喜一(38)が入ってきて、
山田「郵便です」
琴花「新しいスポンサー候補から？」
山田、督促状と書かれた郵便物を置く。
琴花はため息。
紘子がノックもなく部屋に入り、琴花に向かって
紘子「リングの調子が悪すぎる。多分土台のねじが緩んでるんじゃないかと」
琴花は山田に向かって、
琴花「修理よろしく」
山田「ぼくただのマネージャーですよ」
紘子「兼経理部長兼営業部長兼道場長兼運営部長」
琴花「兼選手寮管理責任者ね」
山田「はあ？」
琴花「たった今、空きました」
琴花、２人にスマートフォンの画面を見せる。
画面には、「辞めます(ハートの絵文字)」のメッセージが映っている。
ブツブツ言いながら渋々部屋を出ていく山田。
紘子「まさかこうなるとは」
琴花「メインのスポンサーが新団体旗揚げの２日後に会社丸ごと夜逃げするなんて、予想出来たら私たち今頃億万長者よ」
紘子、請求書の山に手を当てる。
琴花「それで、みんなの調子は？」
２人は事務所の窓から練習場を見る。
純たち所属選手４人が練習中。
楓、黙々とスクワットをしている。
紘子「立花楓。練習態度、性格共に優等生。学生時代体操のエース選手だったんで、運動神経抜群。ルックスもよし。ただ」
琴花「ただ？」
紘子「まじめすぎます。よくも悪くもそつがない」
琴花、道場の鏡の前に立ち、ずっと髪の毛を触っている柳田ここあ(21)を見て、
琴花「あのギャルは相変わらずね」
紘子「柳田ここあ。元読者モデルのアイドル崩れ。ああ見えて空手黒帯。キャラクターもルックスも満点だけど」
琴花「まあ、仲間受けは悪そう」
涼が背後からここあに近付き、肩をつかむ。
ここあはそれを振り払い、鏡に没頭。
琴花、涼を見て、
琴花「相変わらずやつはでかい」
紘子「立島涼。元女子相撲のチャンピオンだけあって納得のガタイです。あれは良いヒールになりますよ」
琴花「でも、良いヒールにはもっと良いベビーフェイスが必要だからなあ」
涼、鞄から大量の菓子パンを取り出し、むさぼり始める。
琴花「体重管理もか」
琴花、リングでロープワークをしている純に目を移す。
純はロープワークを軽快にこなした後、前受け身から素早く立ち上がり、後ろ受け身を３度繰り返す。
琴花はそれを見て、
琴花「相変わらずいい動きだな」
紘子、純の方を見て、
紘子「伊藤純。入って来たときはどうなることかと思ったけど、真面目に練習してようやく形になって来ました。いまでは誰よりも基礎が固い。けど」
紘子、窓から顔を出し、
紘子「純！　スパーリング！」
純、おどおどとうなずく。
紘子、涼に目で合図。
涼はうなずいてリングに向かう。

７〇同・練習場

涼と純、リング上で向き合う。お互いかなり真剣な目つき。
いざロックアップをしようとするその寸前、純は呼吸が荒くなり、よろよろと倒れこんでしまう。
過呼吸で身動きが取れなくなる純。そ

のままマットに寝かされて運ばれていく。
リングサイドまで降りて来ていた琴花はその姿を見送りながら、
琴花「しかし、あそこまで緊張症だとなあ」
８〇同・練習場(深夜)
１人でロープワークをしている純。前転、後後ろ受け身の反復練習をしている。
そこに楓がやってきて、
楓「手伝おうか？」
純、振り返って楓の方を見る。
楓はニコリと笑って、リングに登ってくる。
純「い、いえ、そんな、迷惑をかける訳には」
楓「迷惑？　そうやって中途半端に遠慮される方がよっぽど迷惑よ。ほら！」
楓、純の手を取ってアイリッシュ・ウィップ。
楓自身もタイミングを見計らってロープに走る。
２人は交差するようにロープワーク。
９〇公園・深夜
純と楓、ブランコに揺れながら発泡酒を飲んでいる。
楓「私ね」
純、楓の方を見る。
楓「私、プロレスって嫌いだったんだ。結局うそじゃん、ていつも思っちゃって。でも、体操がだめで、もう何もかもどうでもよくなったときに偶然プロレス見てさ。泣いちゃったんだよね」
純、発泡酒を飲む手を止める。
楓「勝った、負けたじゃなくて、もっとこう、奥に芯があるというか」
楓「体全部使って、命も賭けて、お客さんの心に訴えかける、みたいな。なんかまとまってないけど」
純「分かる気がします。なにより」
楓「ん？」
純「なにより、面白いです」
楓「うん。そうだね」
純、上を見上げる。
公園から見えるビルの隙間から、東京ドームの円形屋上が見える。
楓、純の目線を追ってドームを共に見る。
楓「いつか、あそこに行けるといいね」
純「夢だったんです。琴花さんのように、ザ・ストームのように、あそこで試合をするのが」
楓「過去形？」
純、頷いて、俯きながら、
純「今では、目標です」
楓、笑って、
楓「じゃあ、私も、それを目標にしよっと」
楓、拳を純に向けて突き出す。
純、すこしためらいながら、拳を合わせる。
１０〇アイリス道場・事務所
純、琴花と楓と話し合っている。
楓その様子を外から心配そうに伺っている。
純「(小さな声で)え……？」
琴花「うちは今、余裕がない。使えないものは切り捨てるしかない。言っている意味は分かるな？」
純、何も言わずに拳を握り締める。
紘子「明日、私相手にスパーリングをしてもらう。それが最後のチャンスだ。しっかり準備しておくように」
純、うなだれて何も言わず出ていく。
琴花、窓越しに純を見る。純は楓に慰められている。
１１〇同・練習場(夜)
リングの上に座り込む楓、純、涼、ここあ。
ここあ「そっかー。明日で最後か」
涼はパンを食べながら、
涼「軽くいうな！　まだ決まった訳じゃない」
楓、涼の手からパンを奪い、
楓「しかし、どうしたもんかなあ」
純、俯いている。
ここあ、髪をいじりながら、
ここあ「１人でなら良い動きできるのにねえ」
涼「やっぱり、人と組み合えるようにならな

いとなあ」
純「ひ、人と組み合うことじゃなくて、み、
　み、見られることが、あまり……」
ここあ「よくそんなんでプロレスラーになろ
　うと思ったわね」
　涼、ここあの背中を強めに叩く。
　ここあ、涼を睨みつける。
楓「うーん、人から見られないように試合を
　する、かあ。そんな魔法みたいなこと……」
　楓、猫論であたりを見渡す。
　顔を捻じって事務所の壁に飾られたト
　ロフィーを窓越しに眺める。
　トロフィーの隣に、ザ・ストームのマ
　スクが飾られているのに気付き、
楓「あ」
　一同、楓の方を見る。
　楓はザ・ストームのマスクを指さして、
楓「見つけちゃったかも」

１２○同・練習場
　翌日。
　琴花と紘子、会場に入ってくる。
　紘子、あたりを見渡す。
　近くでヘアメイクをしていたここあに
　向かって、
紘子「おい、純は？」
ここあ「えー、そこにいましたけどお」
　琴花、事務所の壁に掛けられていたは
　ずのザ・ストームのマスクが外されて
　いることに気付く。
　そこに楓と涼と共に、ザ・ストームの
　マスクを被った純が出てくる。
　純は楓と涼の陰に隠れている。
琴花「おいおい」
紘子「それって」
　純、涼に引っ張られ、つんのめるよう
　に琴花と紘子の前に出てきて、
純「お願いします！　１度でよいので」
　顔を見合わせる琴花と紘子。
　純はリングに登り、紘子がそれに続こ
　うとすると、その手を琴花が掴んで止
　める。
　一同、琴花を見る。
　琴花は純に向かって、
琴花「私が相手をする」
　琴花、ジャケットを脱いでリングに登
　る。
　琴花とマスクを被った純がリング上で
　向き合い、ロックアップ。
　純は琴花の頭をヘッドロックでとらえ
　る。
楓「組んだ！」
　紘子、小さくガッツポーズ。
　琴花は純をロープに振る。純は琴花に
　ショルダーアタックを決めるが、反対
　に倒される。
　琴花、ロープに走る。純は腹ばい、開
　脚ジャンプで琴花を交わすと、走りこ
　んで来た琴花にハリケーン・ラナ。
紘子「これは」
　立ち上がった琴花に、純はスプリング
　ボード式のボディプレスを決める。
　楓、呟くように、
楓「ザ・ストームの得意技だ」
ここあ「すると、この次は」
　リング中央で横たわる琴花、コーナー
　上に登っていく純の背中を見ながら、
琴花「おいおい」
　琴花に背を向けて、ロープに登った純。
　深呼吸をしたのち、背筋を伸ばしてム
　ーンサルト・プレスを放とうとする。
紘子「そこまで！」
　動きを止める純。
　紘子はリングに上がり、琴花が立ち上
　がるのを助ける。
　純はリングに降りる。
楓「あの、結果は」
　琴花、紘子に伴われ、何も言わずにリ
　ングを降りる。
　純、リング上で俯く。
　琴花、純の顔を見ずにそのまま、
琴花「そのマスク」
　純、顔を上げる。
琴花「大事に使えよ」
　純、涼、ここあ、楓、リング上で抱き
　合って歓声を上げる。

１３○某プロレス会場・控室
　純、マスクを装着している。
　全身タイツの上にTシャツを着て試合

前の準備運動中。
後ろで控えていた紘子、純の背中を軽く２度叩く。
外から山田の声が聞こえてきて、
山田の声「赤コーナーより、ザ・ストームⅡの登場です！」
再来。ザ・ストーム
純、軽く数回ジャンプし、テントの入口を開けて外に出る。

１４○同・広場
テントから出てくる純。
足を止めている観客は数名程度。
純はゆっくりと歩いてリングに向かう。
トップロープに登り、周りを見渡す。
深呼吸してリングに戻ると、楓から不意打ちでドロップキックを食らい、場外に吹き飛ばされる純。
×　　×　　×
涼と楓が純をロープに振る。
ロープに弾かれ、戻ってきた純に２人でバック・エルボーを決めて倒す。
楓が涼を持ち上げ、ボディスラムで純の上に投げ捨てる合体技を決める。
純「おえ」
純、腹を支えてコーナーを見る。
味方のここあは観客に向かって手を振っていて、純のことを見ていない。
涼、純の足をつかんで引き釣り、リング中央に戻す。
純を起こしながら耳元で、
涼「デビューおめでとう」
涼は純をゴリラ・プレスで持ち上げ、マットに叩きつける。
倒れている純めがけて、楓がトップロープからエルボードロップ。純はもろに食らう。
山田(レフェリーも兼任)が滑りこんできて、マットを叩きながら、
山田「１、２、３！」
山田、楓と涼の手を挙げる。
純、倒れながら２人を見る。

１５○某プロレス会場
楓と試合中の純。
純は攻防の末、楓のドロップキックを顔面に食らう。

１６○化粧室
純、鏡で顔を確認。目が腫れている。
自身の目を触りながら、
純「あちちち」

１７○某プロレス会場
涼と試合中のジ純。
純、リングの外で涼に引きずり回されている。
観客席に向かって投げられ、さらに椅子で涼に背中を叩かれる純。

１８○化粧室
純、鏡に向かって服を捲り背中を移している。
背中は真っ赤にはれ上がっている。
純「あちちち」

１９○某プロレス会場
ここあと試合中のジュン。
ここあはトップロープで観客に向かって手を振っている。
純は隙をついてここあに向かって突進。
ここあはロープからジャンプし、純の突進を交わすと、高スピードでのソバットを決める。
体が宙に浮く純。
座り込んでいる純に、ここあ強烈な蹴りを純の胸に見舞う。

２０○化粧室
楓、服を捲り上げ、腹を鏡に映している。
腹は真っ赤にはれ上がっている。
襟口を下げて胸部を鏡に映すと、胸も真っ赤にはれ上がっている。
純「あちちちち」

２１○某プロレス会場
純、紘子と試合中。
純が動こうとすると、紘子が先に動き
その動きを止める。
紘子は鋭く純を睨みつける。

純はその迫力に押され、1歩も動けない。

２２○化粧室

純は個室にこもり、便座の上に座り込む。

胸を押さえて俯き、激しく呼吸をする。

その呼吸音は大きく、個室の外にも響いている。

２３○アイリス道場・事務所

琴花、頭を抱えて座り込んでいる。

机の上には請求書の山。

２４○同・練習場

選手たちが練習中。

突然悲鳴が響き、バスローブ姿のここあが飛び込んできて、

ここあ「シャワーのお湯が水に変わったんだけど！」

電気が落ちる。

楓「あ、電気止まった」

２５○同・事務所(夜)

アイリスの面々が地面に座り込んでいる。

各々、個々の顔をスマートフォンの懐中電灯で照らしている。

紘子「これからどうします？」

琴花、ため息を吐き、

琴花「金も底をつき、電気も、ガスも止まった」

楓「まだ水は出ますよ」

涼、水道の蛇口をひねるが、水は一滴も出てこない。

涼「止まった」

楓「すいません、嘘つきました」

ここあ「もう、ここまでかなあ」

涼「おい！」

涼、ここあの胸ぐらをつかむ。

紘子「涼！」

琴花「いや、言う通りかもしれない」

一同、琴花を見る。

琴花、頭を振って、

琴花「もう団体は続けることは難しいだろうなあ。ここまで、付き合わせて悪かったな、みんな」

一同、何も言えずにしんみりとした空気が漂う。

純「いやです」

一同、純を見る。

純「ここで夢を終わらせたくないです。私は、この団体で」

純は琴花を見て、

純「あなたと」

純は周りを見渡して、

純「みんなと、夢を叶えたいんです」

紘子「夢って？」

楓、純の方を見る。

純、下を向いてボソッと、

純「東京ドーム」

一同、静まり返る。

涼、急に立ち上がり、

涼「大ぼら吹くのもいい加減にしろ！　今のお前に何ができるんだ。ろくにプロレスもできないくせに」

純「い、いまはまだまだけど、いつかは」

涼「いつかっていつだよ。言ってみろよ！」

ここあ「ちょっと、涼！」

涼、純に掴みかかろうとする。

琴花「だまれ！」

一同、琴花の迫力に驚き動きを止める。

琴花「最後、最後に一回だけ興行を打とう。うまくいかなかったらそこまでだ。純、何か手があるなら、そこで見せてくれ」

純は部屋からでていく。

それに続いて各々が部屋から出ていく。

涼は純を睨みつけてから出ていく。

体育座りのまま1人残る純。

２６○某プロレス会場・会場内

会場に集まったのはいつもより少し多い程度の人数。

空席が目立つ。

２７○同・控室

試合準備をする純達。フリーランスの選手も混ざっている。

琴花が入ってきて、

琴花「さあ、気合入れていこう」

一同、バラバラに返事。
琴花「まず第1試合はここあが島田と組んで
山本、栄とタッグ。楓はメインで紘子。涼
は純と2つ目でシングル」
琴花「サイン会、ダンスタイムあるので、こ
こあよろしく」
ここあ「はーい」
琴花、手を叩いて周りを鼓舞し、
琴花「さあ、気合入れていくよ！」
一同、各々返事をしながら、打ち合わ
せをするために各試合の出場メンバー
で固まる。
純は涼に近付き手を出して、
純「よろしく」
涼は無視してブーツを履いている。
純はその手を引っ込める。

２８○同・会場内
純と涼が試合中。
涼が純をコーナーに追い詰めて首を締
める。
レフェリー姿の山田が反則カウントを
数えて両者をブレイク。
純、涼の耳元で、
純「カウンターでボディプレス」
涼、純を対角線に振る。
純はコーナーを駆け上がり、ボディプ
レスを放つ。
涼は技を受けず、純はリングに激突。
痛がる純の上にまたがる涼、マウント
ポジションから張り手を連発。
純は必死にガード。
リングサイドで控えていたここあ、楓
の耳元で、
ここあ「これまずくない？」
涼、純の髪の毛をつかんで場外に落と
し、荒っぽく客席に投げつける。
涼は客を突き飛ばして椅子を手に取る
と、それで純の背中を殴打。
山田、リングサイドに座っている琴花
に向かって、
山田「中止！　中止！」
琴花、机上のゴングを打ち鳴らす。
セコンド陣が涼を止めようろ一斉に涼
に掴みかかるが、涼は動かず、純への
攻撃を続ける。
涼は琴花のマスクを破り、衣装も破り
始める。
楓とここあ、涼に掴みかかりながら、
ここあ「涼、止まって！」
楓「お願い！」
なおも純に掴みかかる涼。

２９○病院・廊下(夜)
扉の外で待っている楓たち。涼はいな
い。
個室の扉が開き、琴花が出てくる。
楓「純は？」
琴花「怪我は大丈夫そう。軽い脳震盪で、骨
折も特になし」
ここあ「良かった」
琴花「でも」
紘子「心の傷は、測れない、ですね」
XXX
(フラッシュ)
病室のベッドで横たわる純。
布団に全身くるまっている。
XXX
琴花「涼は？」
ここあ、頭を振り、
ここあ「あのまま出ていったきりです。もう
おそらく戻ってこないでしょう」
紘子はため息をつく。
ここあ「人は何を考えているかわからないね」

３０○同・病室
布団にくるまっている純。
顔だけ出して、テレビをつけてチャン
ネルを回していると、プロレスが画面
に映る。
純はすぐにテレビを消してしまう。
手元に置かれた週刊プロレスも投げ捨
てる。
そこに琴花が入ってくる。
琴花、落ちている週プロを拾い上げ、
琴花「調子は」
純、寝返りを打って琴花に背を向ける。
琴花、週刊プロレスのページをめくっ
ていると、あるページで手を止める。
琴花「おい、純」

琴花、純に週刊プロレスの見開きページを見せて、
琴花「これ、見たか？」
純、体を捻って琴花の方に顔を向ける。
週刊プロレスのページには、自身がビリビリに衣装を破かれ、マスクから顔がのぞいている写真が１ページ丸々に掲載されている。
見出しには「覆面の下、隠された美顔」と書かれている。
純、驚いて雑誌をひったくる。
X　　X　　X
ここあ、楓、琴花、紘子が集まる。
それぞれスマートフォンを触っている。
楓「だいぶ話題になってるね」
楓はTwitterを見ている。雑誌と同じ画像がリツイートされている。
リツイート数は３２８。
ここあ「なんでここあの画像じゃないのー」
紘子「あの事件で逆に注目が集まったってわけね。普段は全身タイツで肌も隠している野暮ったいレスラーが、いざ露出をしてみると案外ナイスバディで、しかも美人風だった、と。何が当たるかわからないな、この世の中」
楓「いいのか、悪いのか……」
楓、はっと何かに気付いたように、
楓「もしかして、涼はこれを狙って？」
紘子「まさか」
琴花「いずれにせよ、これはいけるな」

純は布団にくるまる。
純「私、もうやりません」
ここあ、楓、琴花、紘子、顔を見合わせる。
楓、思い切り布団を剥ぐ。
純、縮こまっている。
楓「勢いよく啖呵切ったのはどこの誰よ！こんなときぐらい根性見せなさいよ！」
純は楓の方を見る。

３１〇某プロレス会場・控室
純の姿を確かめるように確認する琴花、
楓、ここあ。
ここあ「悪くないんじゃない？」
琴花「行けそうだな」
ザ・ストームのテーマソングが流れる。
楓「さあ、出番だよ」
露出が増えたコスチュームと、新しいマスクを身に着けた純、緊張のあまり右手と右足を同時に出しながら登場口へと向かう。

３２〇同・会場
純、入場ゲートをくぐる。
満員の客席から声援が上がる。
純、しばらく固まって動けない。
リングで構えている紘子、純に向かってニヤリと笑う。
X　　X　　X
純と紘子、試合中。

紘子、コーナーに純を追い込み、ニーアタック。
フラフラの純に、紘子はスーパーキック。
紘子、ボディスラムを純に見舞ったのち、
紘子「よっしゃ、いくぞ！」
紘子、コーナートップに登って純に狙いを定める。
観客の女の子が、
女の子「頑張れ、ストーム！」
と声を張り上げる。
それを契機に、会場中からストームコールが巻き起こる。
その声を聴いた純、体を起こすとコーナー上の紘子に向かって蹴りを炸裂し、紘子をマットに落とす。
純はコーナーに登り、大きく深呼吸をする。
周りを見渡し、会場の端で見ていた琴花を見つける。
琴花、小声で、
琴花「とべ」
純、初代ストームそっくりのムーブでムーンサルト・プレスを炸裂し、そのままフォール。
山田、滑り込んできてマットを叩く。
山田「１、２、３！」
ゴングが打ち鳴らされ、山田が純の手を挙げる。

山田「ウィナー！」
純、客席を見渡す。
控室から顔を出していたここあ、楓、
純に向かってサムアップポーズ。
純は笑顔で答える。

３３○アイリスの人気が上昇
試合の様子が週刊誌に特集されている。
Ｘ　　Ｘ　　Ｘ
観客が増えた会場で試合をするストーム
と楓。
試合を終えたあと、２人は握手する。
Ｘ　　Ｘ　　Ｘ
ストームと楓、タッグ戦に臨む。

３４○本屋・本棚
週刊プロレスの表紙が純と楓。
男性客数人が冊子を取っていく。
帽子を深くかぶった伊藤聡(52)、雑誌
を手に取り眺める。

３５○某プロレス会場・入口前
多くの観客が詰め掛けている。
チケット売り場後方からそれを満足そ
うに見ている琴花。

３６○同・客席
満員の観客。
観客の男性ファンＡ、Ｂが周りを見渡
し、
男性ファンＡ「いやあ、客が増えて来たな」
２人はパンフレットに目を通す。
「他団体選手」のページに山岸恵子
(28)、レン(25)の写真が掲載されてい
る。
男性ファンＢ「今日のメインの相手は、女子
プロトップ団体フォーリンスターの前タッ
グ王者、シューティング・エンジェルス」
男性ファンＡ「これに勝てば、王座戦が見え
てくるかもな」
Ｘ　　Ｘ　　Ｘ
楓、純ｖｓ恵子、レンの試合中。
楓がレンにコーナーで攻撃を受けてい
る。
レンは恵子とタッチ。
恵子はそのまま楓に攻撃を続ける。
反対側のコーナーに控えている純、
純「楓！」
楓、恵子のドロップキックを避けて純
に近付く。
レンが入ってきて、楓の足をつかんで
阻止。
楓は掴まれた足を軸にした片足ドロッ
プキックを決める。
食らったレンは吹き飛び、恵子と激突。
楓は手を伸ばして純と交代。
試合権を得た純は、トップロープから
レンと恵子に向かってミサイルキック
を放つ。
レンに向かって楓が突進し、２人はリ
ング外へと転落。
純は恵子にボディスラム、ムーンサル
ト・プレスを決める。
山田が滑り込んできて、マットを叩き
ながら
山田「１、２、３」
会場から歓声が上がる。男性ファンＡ、
Ｂは立ち上がって手を挙げる。
楓、純に飛びつく。
楓「やった！」
山田、純と楓の両手を挙げる。

３７○同・控室
琴花と紘子、純と楓の肩を叩いてねぎ
らっている。
琴花と純の前に、恵子とレンがやって
くる。
恵子、手を差し出して、
恵子「ナイスファイト」
純、手を握り返して、
純「ありがとうございます！」
レン「良かったよ。この調子で頑張って」
楓「はい、ありがとうございます」
恵子とレンが去ったあと、顔を見合わ
せて喜ぶ純と楓。
山田がやってきて、
山田「純」
山田、純に手紙を差し出す。
山田「これ、バイトが見つけた」
差し出し人を見ると、伊藤聡と書いて

ある。
急いで封を開けると、地図と時間が記されたメモが出てくる。

３８○純の自宅(夜)
きれいに整理された室内。
純、ベッドの上で体育座りの状態でスマートフォンを手にしている。
スマートフォンから楓の声がして、
楓の声「へえ、親父さんから手紙。良かったじゃん。家を飛び出して会うのは５年ぶりって言ってた？」
純「うん」
楓の声「どうしたん。元気ないね」
純「家出同然に飛び出しちゃってから、顔を見ていないし。私のことどう思っているのか」
楓の声「はは、大丈夫だよ。気にしてなかったらこんな手紙出してこないよ」
純「うん」
楓の声「自信持ちなよ。今の純、素敵だから」
純「ありがとう」

３８○カフェ・店内
下を向いて席に座っている純。
腕時計を気にしている。
入店のベルが鳴り、足音が近付く。
純が顔を上げると、伊藤が純の対面に腰かける。
純「お父さん」
伊藤、微笑んで週刊プロレスを机の上に置く。表紙はザ・ストーム。
伊藤「表紙を見た時、すぐわかった。顔を隠しても娘のことは良くわかる」
純「お父さん、私ね」
伊藤、遮るように、
伊藤「なんだこれは」
純、ビクッとする。
伊藤「家を飛び出してこんなことがしたかったのか」
純、驚く。
伊藤「やりたいことがあるって飛び出して、結局これか。おかげで近所の笑い者だよ。女のやる仕事じゃないだろう」
伊藤、週刊プロレスを取り上げて、
伊藤「もう、帰ってこい。仕事なら紹介してやるから」
純「いやだ」
伊藤、純の顔を睨みつける。
純、涙を流しながら絞り出すように、
純「分かってもらえると思ったのに。夢を応援してくれるって」
純、店から小走りで出ていく。
伊藤、ため息をついて週刊プロレスの表紙を見ている。

３９○アイリス道場・練習場
リングで激しく受け身の練習をしている純。
それを見ているここあ、紘子、楓。
紘子「気合入っているな」
ここあ「なんだか人が変わったみたいで」
琴花、事務所から出てきて、
琴花「それは良い兆候だ」
楓に向かって紙を見せる。
紙には、「フォーリン・スター　タッグ王座選手権試合　試合条項」と書かれている。
紘子「これって」
琴花「決まった。楓と純で取りに行くぞ」
楓「よっしゃー！」

４０○某プロレス会場・会場内
「フォーリン・スター」の主催大会。
観客は満員。
リングでは、純＆楓対熊田ヒミコ(38)＆花(27)のタッグ王座戦が行われている。
場外でもみ合う楓と花。花は楓を鉄柵に叩きつける。
純はリング上でヒミコに首をつかまれている。
純はネックハンギングで持ち上げられる瞬間に蹴りを見舞い、ロープへと走る。
ロープに体を預けた瞬間、セコンドに付いていた女子選手が椅子で純を攻撃。
純のセコンドについていた紘子、ここあが、
楓「レフェリー！　反則！」

動きを止めた純を、ヒミコが抱え上げるが、そのまま丸め込む。
レフェリーがマットを叩きながら、
レフェリー「1、2、3！」
楓、紘子、ここあ、リングに入って純に抱きつく。
会場後方で見ていた琴花、飛び上がって、
琴花「よっし！」
レフェリーがベルトを楓と純に渡す。
純と楓、ベルトを持って抱き合う。
楓「やったね純、やったよ」
純、泣きながら頷く。
フォーリン・スターの選手たちが、純達に仕返しをしようと次々とリングに上がってくる。
純、楓、紘子、ここあはリングから逃げるように急いで出る。
紘子「王者になったってことは、ずっと首を狙われ続けるってことだ。覚悟しておけよ」
純、リングに上がった選手たちの鋭い眼光を確認する。

41○モンタージュ・活躍する純と楓
様々な媒体で活躍する純と楓の姿を、スライド式に紹介。
週刊プロレスの表紙を飾る純、女性向け雑誌からの取材を受けている純、楓。
次第に楓の姿がなくなり、登場するのは純のみになる。
テレビ番組に出演する純、満員の中ファンイベントに参加する純、水着の写真集を出す純。
純はどの媒体でもマスクを着けている。

42○体育館・会場内
楓、重田なつみ(26)にコーナーに追い込まれている。
なつみは秋津さよ(24)にタッチ。さよは楓に攻撃を加える。
純は対角線のコーナーから、
純「楓！」
観客から、
観客「ザ・ストームを出せ！」
観客全体「ストーム！　ストーム！　ストーム！」
楓、困惑気味に周りを見渡す。
さよ「よそ見をするな！」
さよ、楓にタックル。
楓はそれを前転で避けて、純にタッチ。
純がジャンプしてリングイン。
観客、異常なほど盛り上がる。
楓は不安げに辺りを見渡す。

43○同・控室
試合後、1人で帰る準備をしている楓。
万雷の拍手と共に、純がリングから戻ってくる。
純「おつかれ、楓」
純、すこし逡巡しながら握手に応じる。
楓「う、うん」
純「今日、このあと」
ノック音に続いて、琴花が入ってくる。
琴花「純、ちょっといい？」
純「はい。ごめん楓、また後で」
純、部屋を出ていく。
楓、純の後をつけ、こっそりと扉を開けてのぞく。

44○同・廊下
控室から首を出して外を覗いている楓。
琴花、純と、新聞記者の男性が話している。
琴花「こちら、毎日スポーツの田中さん。プロレス・アワードの運営をされている」
田中「どうも」
男性、純に名刺を渡す。
純、軽く頭を下げて応じる。
男性「今回、ストームさんには話題賞を授与できればと考えていまして」
純「え！」
楓、そっと扉を閉める。

45○ホテル・会議室
プロレス・アワードの発表式会場。
多くの有名レスラー、記者で会場は賑わっている。
ステージには、正装した男女レスラーたちが盾を持って壇上で撮影会中。
ドレス姿の純(マスクをつけている)は

「話題賞」と書かれた盾を持って一団の端で立っている。
並んでいる選手達に向けて、無数のフラッシュが焚かれる。

４６○料亭・外観(夜)
立派なお屋敷のような高級店。

４７○同・店内(夜)
アイリス所属の選手、スタッフがお酒を飲んで騒いでいる。
楓、ここあ達既存選手の他、新しい選手が増えている。
若い選手に囲まれ、楽しそうに飲んでいる純。
藤田萌子(19)、純の近くに寄り、
萌子「純さん」
純、萌子の方を見る。
萌子「私、３期生の藤田萌子といいます。ザ・ストームに、純さんにずっと憧れていたんです」
萌子は純に握手を求める。
純は萌子の手を、ためらいがちに握り返す。
ここあが勢いよく立ち上がり、
ここあ「はい、ちゅーもく！　ここで、我らがリーダー、林琴花大先生からご挨拶頂きます。琴花さん、どうぞ」
一同、拍手で琴花を迎える。
琴花「えー、まず、一年間お疲れ様でした。皆さんのお陰で、新たな仲間も加えてここまでやって来ることが出来ました」
琴花は、紘子や楓、初期メンバーを順番に見遣り、
琴花「ここまで長かった。でも我々はこれからだ。まだ旅は終わらない。そしてその旅の先導役は」
琴花、純を指さし、
琴花「話題賞受賞者、アイリスのエース、ザ・ストーム２世、伊藤純しかいない！」
一同、拍手で純をたたえる。
ここあが扇動し、純コールが起こる。
純、照れくさそうに立ち上がり、コールに応える。
前に出て琴花と握手する純。
琴花「頼んだよ」
楓、つまらなそうにその様子を見ている。
端の方に、琴花と楓の様子を苦々しげに見ている一団がある。

４８○アイリス道場・控室
練習生４、５人が楓を囲むようにして立っている。
練習生Ａがロッカーを叩きながら、
練習生Ａ「どうしてあの人ばかり評価されて、楓さんは何も貰えないんですか！」
練習生Ｂ「最近はあの人、ろくに練習すらしてないんですよ！」
楓、ため息を吐いて、
楓「人には人の役割があるんだよ。純がやってくれていることは団体のためだから」
練習生Ｂ「でも、この前楓さん、純さんのミスで怪我しかかったじゃないですか。おかしいと思わないんですか？」
楓、練習生Ｂを強く睨みつける。
楓「純がしていることは……」
大きな音を立てて扉が開き、純が入ってくる。
黙り込む一同。
純、何も言わずに荷物を置き、そのまま出ていく。
楓、慌てて純を追って部屋を出る。

４９○同・廊下
楓、小走りに純を追いかけて、
楓「純！」
楓、純の肩を掴む。
純は楓の手を振り払い、
純「気を使っている風を装うのは辞めて！」
楓「え？」
純「私のこと疎んでいるんでしょ。隠さなくても良いよ」
楓「そんなこと」
純「私だって、やりたくてやっているわけじゃない。アイリスのため、私たちの夢のために頑張っているのに」
楓「分かってるよ」
純「分かってない！」
楓、ビクッとする。

純「あんたも、琴花さんも、あいつらも、私がどれだけ頑張っているか知らないんだ！　私が居なかったら、この団体もここまでにならなかった！」
　楓、純の発言にぴくっと反応して、
楓「あんたのおかげだあ？　それなら言わせてもらうけど、あんたのそういう態度が周りにとって迷惑なんだよ！　いつまで被害者面して！」
純「うるさい！　私がいなければ何もできないくせに！」
　純、楓に肩をぶつけて立ち去っていく。
　その様子を影で聞いている琴花。

５０○後楽園ホール・入場口前ロビー
　多くの観客が集まっている。
　ポスターにはアイリスのロゴと、純の写真が大きく貼られている。
　メインイベントとして、純と楓が持つフォーリン・スタータッグ王座戦が組まれている。

５１○同・会場内
　客席はほぼ埋まっている。
　山田、バックステージのカーテンから顔を出し、会場の様子を見ている。

５２○同・バックステージ
　アイリスの選手達がウォームアップ中。
　山田が小走りでやってきて、興奮気味に、
山田「凄いですね！　ホールがこんなに埋まるなんて」
ここあ「えー、ほんと？」
　ここあ、外の様子を一目見ようと客席に向かう。
　楓は何も言わずに隅で、１人準備運動している。
　紘子、近付いてきて、
紘子「純は？」
楓「さあ、ファンサービス中じゃないですか？」
　紘子、楓を見ながら、
紘子「今日、メイン頼むな」
　楓、何も言わない。

５３○同・階段
　純、若い男性と話しこんでいる。
　純はその男性にしな垂れかかるように身を寄せている。
若い男性「こんなところまで入って、大丈夫だったのか？」
純「大丈夫、大丈夫」
若い男性「今日メイン、頑張れよ」
純「ありがと」
　足音が聞こえ、階段の上から琴花が降りてくる。
琴花「余裕そうだな」
　若い男性、純から離れて、
若い男性「し、失礼しました」
琴花「ここは関係者以外立入禁止です」
若い男性「は、はい。じゃあ、純、頑張って」
　若い男性、そそくさとその場を去る。
　純、琴花と目を合わさずに立ち去ろうとする。
　琴花、純の前に立ちふさがり、
琴花「おい、純。お前、最近少し浮ついているんじゃないか？　今日のメインは大丈夫なのか？」
　純、琴花の方を見ず不機嫌そうに、
純「私の勝手でしょ」
琴花「おい、純！」
　純、琴花を無視して立ち去る。

５４○同・会場
　対戦相手の岩谷もゆ(27)、首里(26)がリング上で楓、純の登場を待つ。
山田「赤コーナーより、フォーリン・スタータッグ王者、ザ・ストームⅡ、立花楓の入場！」
　会場、沸き立つ。
　楓が登場した後、少し時間をおいて純が登場する。
　会場からはストームコールが巻き起こる。
　Ｘ　　Ｘ　　Ｘ
試合開始直前。
もゆと首里、楓と純が対角線上でにらみ合っている。
楓は相手ではなく、純を睨みつけている。

X　　X　　X

試合中。
純、エプロンに控える楓とタッチしようと腕を伸ばすが、もゆが純の足を掴む。
純はエンズイギリでもゆを引き離し、ジャンプして楓にタッチを試みる。
首里がリング下から楓の足を引っ張り、タッチ成立寸前で楓を引き落とす。
首里、場外から純に向かって舌を出して挑発。
もゆ、純を踏みつける。

５５○同・客席後方
紘子と琴花、試合を見ている。
琴花、ボソッと、
紘子「随分と焦らすな」

５６○同・リング
純、もゆに逆エビ固めを決められている。
もゆ「おりゃあ！」
純は痛みのあまり、悲鳴を上げる。
場外で、首里が楓に向かって突進するが、楓がショルダースルーで投げ捨てる。
それを見た純、力を足に入れ、首里を跳ね飛ばす。
楓、リングサイドに上がり、
楓「ストーム！」
純、エプロンから手を伸ばす楓に向かってジャンプ。
タッチが成立する直前に、楓は自らエプロンから飛び降りる。
驚きから、観客は黙り込む。
純、楓に向かって、
純「楓？」

５７○同・客席後方
ざわつく観客席。
紘子は思わず立ち上がり、
紘子「おい！」
琴花は落ち着き払って座ったまま。

５８○同・リング
楓、リング下から純を睨みつける。
唖然としている。純の背後からもゆが近付き、背後からスクールボーイで丸め込む。
レフェリーが滑り込んで、
レフェリー「１、２、３」
もゆ、リングから逃げるように滑り降りる。
呆然としていた山田、はっとしたようにマイクを掴み、
山田「勝者、そして新王者、岩谷もゆ＆首里！」
王者ベルトを渡される新王者組。
純は状況が理解できず、リング上から動けない。
楓がその背後から忍び寄り、椅子で純を叩く。
純は痛みの余りうずくまる。
楓、マイクを取り、
楓「もうてめえについては付いていけない。これからは私の時代だ！」
楓はマイクを叩きつけ、動けない楓に向かい椅子を２、３度叩きつける。

５９○同・控室
楓以外の選手たちが控室に集まっている。
純、体を引きずりながらやってきて、
琴花に向かい、
純「聞いてないですよ、こんなの！」
純は琴花に掴みかかる。
ここあや紘子達が必死に純を止め、
紘子「落ち着け！」
琴花「騒ぐな！」
一同、黙る。
琴花「楓の件は私が決めた。お前の最近の行動は身に余るものがある。何様のつもりだ！」
純「私だって」
琴花「お前は謹慎処分だ。少し頭を冷やせ」
純「琴花さん！」
琴花、控室を出る。
その場で立ち尽くす純を置いて、他のレスラー達は部屋を出ていく。
ここあ、純に声を掛けようとするが、
紘子がここあの肩を叩いて首を振る。

ここあは紘子に続いて部屋を出る。
萌子、部屋を出る際に振り向き、１人残る純を見る。

６０○純の自宅・居間（夜）
純、何もない広い部屋の中で布団にくるまり、スマートフォンをいじっている。
スマートフォンでニュースを読んでいる純。ニュースには楓がフォーリン・スター、スターネス王者に君臨し、防衛を重ねていることが書かれている。
見出しは、「地獄の使者と化した楓、脳天杭打ちで天下を狙う」。
画像は、楓が対戦相手をパイルドライバーで仕留めているシーン。
一層布団の中で小さく丸くなる純。
来客を告げるチャイム音が鳴るが、純は無視。
インターフォンから、萌子の声が聞こえる。
萌子の声「先輩！　純先輩！」
純、体を起こす。

６１○同・玄関
扉を開ける純。
チェーンの隙間から萌子が顔を出す。
萌子「純さん、これ」
萌子、食べ物が入ったビニール袋を渡す。
純「ありがと」
純、扉を閉めようする。
萌子「私」
手を止める純。
萌子「私、悔しいです。純先輩があんな扱いされて。先輩は団体のためにここまでやって来たのに。先輩は、先輩はこのままでいいんですか！？」
純「仕方ないよ。もう、いいかな」
純、扉を閉めようとする。
萌子「こんど、国技館で単独興行があるんです。そこで新設タイトルをかけた試合がある予定です。このままなら、私が楓さんと当たります」
純、手を止めて顔を上げる。
萌子「楓さんに、やり返すチャンスなんじゃないんですか？」
純「私は、もういいよ。また迷惑かけちゃうから」
純、扉を閉めようとするが、萌子が間に足を挟んで止める。
萌子「そうやって責任転嫁するのはもうやめましょうよ。純さん、あなたはどうしたいんですか？」
純、少し考え込む。

６２○アイリス道場・練習場
選手たちが練習中。
純が扉を開けて、足音を響かせながら入って来る。
選手たちは手を止めて純の方を見る。

６３○同・事務所
ノックもなしに扉を開けて部屋に入っていく純。
琴花は椅子に座り、純に背を向けて、
琴花「呼んでないぞ」
純「両国、メイン出させてください」
琴花、体を回して純の方を向く。
琴花「お前、それ本気で言ってんのか？」
純「当たり前です」
琴花「いま、うちの団体はお前がいなくても十分に回せている。お前はもうエースじゃない。楓がエースだ。ここはプロレス。人気がすべてなんだよ。そのことは、お前が一番わかっているだろ」
純、拳を握りしめる。
琴花「メインは楓と萌子に任せる」
萌子の声「譲ります」
琴花と純、声の方を振り返ると、入口に萌子が立っている。
萌子「譲ります。純さんに」
琴花、ため息をついて、
琴花「あのなあ」
萌子「さっきの琴花さんの言葉の通り、この業界は人気がすべてです。今のファンは私と楓さんより、純さんと楓さんの試合が見たいんじゃないんですか？」
琴花「お前」
萌子「確かに全盛期対決とは行かないかもし

れません。でも新旧エース対決、因縁の対決となれば、これ以上ないメインになると思うんです」
琴花、考え込む。呟くように、
琴花「因縁の一戦、か」
純、拳を握り、覚悟を決めて、
純「やらせてください」
琴花「覚悟はあるのか？」
純「もちろんです」
琴花、椅子を回して純と萌子に背を向ける。
琴花「体、作っておけよ」
純、頭を下げて事務所から出ていく。
萌子は純を追いかけていく。

６４○同・練習場
純、出口に向かって歩く。
萌子が小走りで後から追ってきて、
萌子「すいませんでした。ああいうしかなくて」
純、立ち止まる。
萌子、不安な顔で純に続いて立ち止まる。
純「練習、手伝ってくれる？」
萌子、満面の笑みで、
萌子「はい！」

６５○同・事務所
女子選手達、琴花に詰め寄る。
女子選手「なんであいつ」
ここあ「おい、言葉に気をつけろよ」
女子選手「(咳払いをして)純さんがメインなんですか？」
琴花、にやりと笑い、
琴花「まあ落ち着け。大丈夫だ。きっと良い大会になる」
琴花の笑みを見逃さなかったここあと紘子、顔を見合わせる。

６６○純と萌子の練習
純、萌子とランニングしている。
２人ともかなりのハイスピード。
〆　〆　〆
純、萌花の補助でバーベルを上げる。
重りの数がかなり多い。
〆　〆　〆
純と萌花、スパークリングをしている。
お互い激しくチョップを打ち合う。
音がかなり激しく、周りの練習生達は自然とリングに目を奪われ、リング周りに集まっていく。
その様子を入口から見ている楓。

６７○純の自宅
純、椅子に座って何かを書いている。
手元には、両国国技館大会のチケットが１枚置かれている。
手を止めて天を仰いだ純、封筒に手紙とチケットを入れて机に置く。封筒の宛名は「伊藤　聡」。

６８○両国国技館前・歩道(夜)
国技館を眺めている純。
発泡酒を一口飲む。
楓の声「１人寂しく何してんの？」
純、声の方を振り向くと、楓が発泡酒を持って立っている。
〆　〆　〆
純と楓、並んで発泡酒を飲んでいる。
楓「明日。明日、良い試合しようね」
純、頷く。
夜空の中、街頭に照らされて輝く国技館が見える。

６９○両国国技館・入口前
多くの観客で賑わう会場前。
ストームのマスクを被った子供たちも多くいる。
観客たちは次から次へと入口でチケットをもぎられて入っていく。
伊藤聡、人混みに混ざって手紙を手にやって来る。

７０○同・ロビー
祝花や選手グッズが所狭しと並べられている。
飾られているポスターのメインビジュアルには、「過去か、未来か」というキーワードと共に、睨み合う楓と純の写真が使われている。

７１○同・リング
アイリス選手が激しい試合を見せる。
ファンは大盛り上がり。

７２○同・控室
純、１人静かに椅子に座っている。
ノック音が聞こえ、萌子が入って来る。
萌子「いよいよ、ですね」
純「うん」
萌子「純さん、良い試合楽しみにしています。
純さんなら絶対大丈夫です」
純、萌子と顔を合わさないまま、
純「うん」
萌子「じゃあ、失礼します」
萌子、部屋を出ようとする。
純「もえ」
萌子、振り返る。
純、顔を合わさないまま、
純「ありがと」
萌子、微笑んで出ていく。

７３○同・控室外
部屋から出てくる萌子、邪悪な笑みを
浮かべる。

７４○同・会場内
ここあと紘子、セミファイナルを終え
てレフェリーに手を挙げて称えられて
いる。
リングサイドには琴花、山田、そして
スーツ姿の老人の姿がある。
客席後方には、伊藤が座っている。
観客に応えながら引き揚げていくここ
あと紘子。

７５○同・入場ゲート裏
純、軽くジャンプをしながら準備運動
中。
引き揚げて来た紘子とここあ、関係者
と握手を交わしながら純に近付く。
紘子は純の肩を軽くたたき、ここあは
純の耳元で、
ここあ「頑張れよ」
純、頷いて答える。

７６○同・リング
リングアナウンサーがマイクを握り、
リングアナウンサー「只今より、本日のメイ
ンイベント、初代アイリス女子王座選手権
試合、時間無制限一本勝負を行います。赤
コーナーから、伝説の再来、アイリスの象
徴、ザ・ストームⅡの入場です！」

７７○同・入口裏
自身のテーマソングを聞きながら、目
を閉じて気持ちを高める純。
純は意を決し、関係者の拍手に送られ
ながらベールをくぐってリングへと向
かう。

７８○同・花道
大量の「ストーム」コールの中リング
へと向かう純。
客席からその姿を見ていた伊藤、周り
の観客の盛り上がりに圧倒される。
花道を堂々と進む自分の娘、ザ・スト
ームを眺める。

７９○同・リング
純、リングイン。
対角線のコーナーでは、楓が待ち構え
ている。
X　　X
レフェリー、対角線に控える楓と純に
合図を出してから、
レフェリー「レディ、ファイト！」
ゴングが打ち鳴らされ、客席から大き
な拍手が起こる。
純と楓はロックアップ。
X　　X
純、楓を場外に出し、トペ・スイシー
ダを狙うが、純のセコンドが楓の足を
引っ掛ける。
純は転んでしまい、会場からは大ブー
イング。会場を煽る楓。
楓はエプロンに登り、純に向かってス
プリングボード式のミサイルキック17を
叩き込む。
カバーに入るが、カウント２で返す純。

楓はレフェリーに詰め寄る。
楓「今のは３だろ！」
純が楓の背後から飛びつき、背負われた状態でスリーパーホールドを決める。
楓は、コーナーに純を叩きつけて脱出。
コーナーの純に飛び込んでいくが、純が避ける。
ふらつく楓をリバース・ラナでマットに突き刺す純。
倒れて動かない楓を確認し、純はコーナーに登る。
ざわつく観客席。
純はコーナー上から、ムーンサルトを発射。
会場がその一瞬無音になる。
X　　X　　X
（フラッシュ）
観客は息を飲んでリングを見守る。
伊藤、思わず立ち上がる。
X　　X　　X
ゆっくりと弧を描いてリングに向かって落ちていく純。
炸裂の瞬間、楓が体を転がして避け、純はマットに体を打ち付ける。
楓は純を起こすと、パイルドライバーを決める。
勝ち誇った様子でカバーに入る楓。
レフェリーがカウントする。カウント２で肩を上げる純。
会場は大盛り上がり。

セコンド陣がエプロンを叩いて両選手を盛り立てる。
お互いを睨みながらよろよろと立ち上がる純と楓、互いにパンチを応酬する。
X　　X　　X
（フラッシュ）
パンチに合わせて声を上げる観客。
伊藤、拳を固く握り締めて試合を見守っている。
X　　X　　X

８０○同・入口ゲート付近
レスラー達が試合を見ようと続々とゲートから顔を出す。
ここあと紘子も出て来て観戦。

８１○同・リング
楓、純のパンチを避け、手を取って脇固めに移行する。
ものすごい角度で締め上げる楓。
純は痛みのあまり悲鳴を上げる。
純「あー！！」
セコンドの萌子、純に近付き、
萌子「純さん、こらえて！」
純、前転して体勢を入れ替えたのち、クロスフェイスで逆に楓を捕獲する。
純「おりゃー！」
楓の背中がものすごい角度で反られる。
楓の手がロープを求めて宙で泳ぐ。
タップ寸前で必死にこらえる楓。

リングサイドの萌子、表情を変えてレフェリーに向かって指で何か合図。
それを見たレフェリー、萌子に向かって頷く。
レフェリーはゴングを要請し、ゴングの音が会場内に鳴り響く。
純は気付かずに楓を締め上げ続けつるが、レフェリーによって引き離される。

８２○同・観客席
山田と琴花、リングを見ている。
山田、立ち上がって、
山田「どうなっているんだ？」
琴花は眼光鋭くリングを睨みつけている。

８３○同・入口ゲート付近
不審そうにリングへと向かう選手達。
ここあと紘子もそれに続く。
紘子、リング脇から駆け足で控室へと消えていく萌子とリングスタッフの姿を見つける。

８４○同・リング
セコンド陣、純、琴花がレフェリーに詰め寄っている。
リングアナウンサーの声「只今の試合、16分39秒、一本勝ちにより、新アイリス女子王座選手権者はザ・ストームⅡに決定しました！」

スタッフからベルトを手渡される純。
レフェリーは逃げるようにしてリングを去る。
楓「どういうことだよ、私はタップしてないぞ！」
観客席から大きなブーイングが発生。
楓、他のレスラーの静止を振り切り、純に掴みかかる。
楓「てめえ、知ってたのかよ！」
楓はレスラー、スタッフに静止されて、純から引き離される。
楓「おい、何とか言えよ！」
純、状況が把握できずにその場に立ち尽くす。
客席から紙コップが投げられ、純に当たる。
観客A「ふざけるな！　裏切りもの！」
それをきっかけに、観客席から大量にものが投げ込まれる。
あちこちから怒号が飛んでくる。
リングアナウンサー「ものを投げ込まないでください！　ものを投げないでください！」

８４○同・観客席
客席は席を立ち、手元にあるものを次々と投げ込む。
観客A「金返せ！」
観客B「ふざけるな！」
伊藤、ものを投げようとしている観客を必死に静止。
伊藤「やめろ、やめてくれ」
観客A「うるせえんだよ！」
伊藤、観客Aに突き飛ばされる。
周りの観客は全員我を忘れて物を投げ、怒号を上げている。

８５○同・リング
投げ込まれた食べ物、飲み物でマットはびちゃびちゃ。
その中で純は１人立ち尽くしている。
ぶつけられた飲み物や食べ物で衣装はかなり汚れている。
紘子、ここあが駆けてきてタオルで純を包み、リングから連れ出す。
紘子「身をかがめて」
ここあ「純、しっかり」
おぼつかない足取りでリングから離れていく純達。

８６○同・関係者口(夜)
純、ここあと紘子、山田に付き添われ、タクシーに乗り込む。
ここあ「純、大丈夫。大丈夫だから」
タクシーが発進。
ここあと紘子、それを見送る。

８７○タクシー・車内
純、窓にもたれかかりながら静かに涙を流す。

８８○都内・会議室
アイリスの記者会見会場。
多くの記者が会場に詰めかける。
壇上には紘子、琴花、山田が座っている。
フラッシュが焚かれ続ける。

８９○純の自宅・室内
純、布団にくるまって、パソコン画面から流れる記者会見の生中継映像を見ている。

９０○都内・会議室
純のため、スマートフォンで会見を撮影しているここあ。
記者席に座っていた大内誠(35)が挙手。
琴花が手で指し示す。
大内「今回の事件に関して、まずレフェリーのミスだったのか、第三者による仕組まれた事件だったのか、そのあたりをお聞かせください」
山田がマイクを握ろうとするが、琴花が手で制して話し出す。
琴花「今回の事件に関して、まず関係者の皆様、並びにファンの皆様に多大なるご迷惑をおかけしました。申し訳ございませんでした」
立ち上がり、頭を下げる琴花達。
琴花「私達で調査を進めたところ、今回の事件はミスではなく、第三者によって引き起

こされたことが発覚しました。今回の事件は、メインイベント出場者であり、当団体選手権者でもあるザ・ストームⅡこと伊藤純により引き起こされたものです」
紘子、驚いて琴花の顔を見る。
ここあは衝撃のあまりスマートフォンを床に落とす。
会場がどよめく。

91○純の自宅
衝撃のあまり、パソコン画面に釘付けの純。
画面内では無数のフラッシュが焚かれ、琴花が意気揚々としゃべっている。

92○ホテル・会場
琴花、マイクを持ったまま、
琴花「伊藤純は、今回の試合前にレフェリー、タイムキーパーと結託し、対戦相手である立花楓がギブアップを宣言する前に試合終了させるように仕組んでいた可能性が高いです。なお、この件はアングル、ショーの一部ではございません」
記者陣が挙手制を無視して各々質問をぶつける。
それを制するように、琴花より一層大きな声で、
琴花「なお、今回の件を受けて、当団体はコンプライアンス強化の必要を痛感いたしました。そこで、新東京プロレス、並びに朝陽テレビとの業務提携をここに発表します」
会見場に、両国国技館大会にいたスーツ姿の老人、藤田達郎(49)に続いてピーター・メイ(43)が登場して登壇。
琴花「ご紹介します。朝陽テレビ社長藤田達郎さん、新東京プロレス社長ピーター・メイさんです」
藤田とピーターは記者陣に向かって頭を下げる。

93○純の自宅
布団の中の純、ノートパソコンを叩くように閉じる。
怒りが抑えられず、床を一発、二発と殴りつける。

94○アイリス道場・練習場
紘子、練習をしていると、入口から揉める声が聞こえてくる。

95○同・入口(外から)
フードを被った純が、練習生の静止を振り切って事務所に入ろうとしている。
練習生「純さん、ちょっと」
純「離せ！　琴花さんに会わせてくれ！」
紘子が中から出て来て、純を制し、
紘子「おい、落ち着け純」
純「琴花さんに会わせて下さい」
紘子「琴花さんは今忙しいんだ」
純「こんなの無いですよ。私が何したっていうんですか。もう訳わかんないんですよ」
紘子「落ち着けるくれ、頼むから」
純「落ち着ける訳がないでしょう、こんな状況で！　紘子さんは何とも思わないんですか。おかしいと思わないんですか？」
紘子、何も答えない。
純「紘子さん！」
紘子「何も言えない。わからないことが多すぎる」
カメラを構えた記者数名が騒ぎを聞きつけて寄って来る。
純、それに気付いて足早にその場を去る。
純、去り際に紘子に向かって、
純「見損ないましたよ、紘子さん」
紘子、ため息をつきながら紘子を見送る。
事務所の窓から、一連の様子を眺めていた琴花の顔が見える。

96○同・事務所
琴花、窓から外の様子を見ている。
そこに萌子がやってきて、
萌子「上手くいきましたね」
琴花「あんたの親父の思い通りか、(藤田の部分を強調して)藤田萌子」
萌子、ニヤリと笑って、
萌子「私の、思い通りです」

97○マンション・ロビー

郵便受けには郵便が大量に刺さっている。
手紙が受け口から数枚こぼれ落ちている。手紙には、「裏切りもの」や「業界の恥さらし」など殴り書いてある。

９８○同・純の自宅
布団にこもっている純。
脇に置いてあるスマートフォンの画面には、「ザ・ストームⅡって結局何がしたかったんだ？」というタイトルの記事が出ている。
コメント欄には、「ブスの振りした美人の振りしたブス」、「出涸らしみてーな女だな」、「結局生き恥をさらしたかっただけじゃねえか」などの書き込みがある。
来客のチャイムが鳴り、布団越しにビクッとなる純。
再度チャイムが鳴るが、純は動かない。
伊藤の声「おい、いるんだろ」
純、声に反応して体を起こす。
モニターには、ビニール袋を抱えた伊藤の姿がある。

９９○同・外
伊藤が扉の前で立っている。
扉が空き、純が出てくる。
純の髪はぼさぼさで、服もヨレヨレ。
伊藤、何か言おうとするが口を閉じ、頭を掻く。
伊藤「いい試合だった」
伊藤は両国大会の半券を純に見せる。
伊藤「いい試合だったよ。本当に。母さんにも見せてやりたかった。絶対お前のことほめてくれるよ」
純は下を向いているが、こらえきれずに泣き出す。
伊藤、純を抱きしめて、
伊藤「胸を張れ。いい試合だったぞ。お前は頑張った。凄いぞ」
純、声を出して泣く。

１００○後楽園ホール・入口（夜）
T「1年後」
新生アイリスの単独興行。
多くのファンが詰めかけている。
入口のポスターには、楓や紘子、琴花よりも大きく萌子の写真が載っている。
その下には大きく朝陽テレビのロゴ。

１０１○同・リング（夜）
満員の観客の中、若手レスラーが４人タッグマッチで試合中。
リングサイドには豪華な機材を抱えたテレビクルーが控えている。
大会の様子を客席の後方から見ている琴花と萌子。
その周辺では多くの側近が控えている。

１０２○地方スーパー・総菜コーナー調理室
５人程度の調理人が働いている。
そのうちの１人の純、総菜をよそって計量器にかけ、グラム数を図る。
メモリがちょうど１００グラムを指したのを確認し、容器に移す純。
それを見ていた外国人就労者のトマチョン(25)、
トマチョン「(片言で)純さん、さすが、ぴったしね」
純、笑顔でサムズアップ。
時計が 18:00 を指し、チャイムが鳴り響く。
トマチョン「純さん、あがろ」
純「うん」
交代で入って来る調理人達と入れ替わりで部屋を出ていく純とトマチョン。

１０３○商店街(夕方)
少ない人通りの中、知り合いの店主に挨拶しながら歩いている純。その足取りは軽く、顔は朗らか。
本屋の前を通りすぎる純。本屋には外向けにディスプレイに週刊プロレスが飾られている。
その拍子には「時代の盟主、目指す先は」という見出しと共に、琴花の写真が掲載されている。
純はそれに目もくれずに直進。
純の後ろを何者かがつけている。

それに気付いた純、わざと路地裏に入る。
怪しい男、純に続いて路地裏に入る。

１０４○路地裏
怪しい男が駆けこむが、人影がない。
呆然と立ちすくむ男の背後にそっと近づく純、男をスリーパーホールドでとらえる。
男、もんどり打って純の腕を叩いてタップアウトの意思を示す。
純、男が目深にかぶっていた帽子を脱がすと男の正体が山田であったことがわかる。
純、手を放して、
純「お前」
山田、首をさすりながら純の方を向いてへこへこしている。

１０５○レストラン・店内
山田と純、対面で席についている。
テーブルには「新東京プロレス６０周年大会　両国国技館」と表紙に書かれた企画書が広げられている。
純「それ、本気ですか？」
山田「冗談じゃこんなこと言えない。純にはこの大会の前座試合、バトルロイヤルにぜひ出場してほしいと思っている」
純、手元のコップを掴み、中に入った水を山田にかける。
純「ばかにしないでください！」
山田、静かにタオルを取り出し、顔をふきながら、
山田「これは琴花さんからじゃない。僕からのオファー、いやお願いだ。これを逃せば２度と琴花さんの思うままになる」
純、落ち着きを取り戻して着席する。
山田「全責任をお前に押し付けた後、琴花さんは萌子さんをエースへと強引に押し上げた。それを機に団体は不自然な追い風を受け、あのフォーリン・スターをもしのぐ業界トップの団体へとのし上がったんだ。この意味が分かるか？」
純、何も答えない。
山田「全ては仕組まれていたんだよ。萌子の本名は藤田萌子。朝陽テレビ社長藤田達郎の実の娘さ。琴花さんは、後ろ盾を得るためにお前を売ったんだ」

１０６○伊藤家・居間(夜)
純と伊藤、晩飯を食べている。
心ここにあらずの様子の純。
山田の声「僕は自分が許せない。このままでいいはずがないんだ。お前は、ザ・ストームはどうしたいんだ？」
伊藤「……大丈夫か？」
純、我に返り、
純「うん、大丈夫」
純、勢いよく晩食を食べ始める。
その様子を不審そうに見ている伊藤。

１０７○同・寝室(夜)
純、ベットに寝転んで天井を見る。
横を見ると、新東京プロレス大会の企画書が目に入る。

１０８○同・扉の外
伊藤、ノックをしようと手を挙げるが、その手を降ろして立ち去る。

１０９○電車内(夜)
乗客は少ない。
窓越しに街頭の灯りが流れていく中で、純は俯いたまま座っている。

１１０○旧アイリス道場・入口・屋外
ツタや生い茂った林で覆われている建物。長い間手入れがされていない様子。
純、両手をポケットに突っ込み、建物を眺めている。
楓の声「ほんとにいた」
純、声の方を振り返ると、純、紘子、ここあが立っている。
純、懐かしさのあまり声がでない。

１１１○同・事務所内
輪になって話している純達。
楓「あなたのお父さんから連絡があったの。いるならここだろうって」
純「お父さんが……」

楓「あのあと、テレビ局や新東京プロレスの
親会社の協力もあって確かに金回りは良く
なった。でもどう考えてもあの事件の辻褄
が合わなくて」
ここあ「突然楓も外されて、藤田萌子がメイ
ンを張るようになったの」
楓「結局私たちは、手のひらで踊らされて
いただけだった。夢とか目標とか。なんだ
かくだらなかったね。結局地に足について
ないだけだったのかも」
紘子「ごめんな。純。ずっと謝りたかった。
あのとき、お前を信じてやれなかった。本
当にすまなかった」
紘子、純に向かって頭を下げる。
ここあ、楓もそれに倣い、頭を下げる。
純「もう、遅いですよ。あれから何もかも変
わってしまった。今更私にできることはな
いです」
楓「純……」
純「もう、私は何者でもない。あのとき、全
てをリングに置いてきたんです。でも……」
純、立ち上がり、
純「このまま終わるのは、なんか癪だな。今
まで私、誰かのために戦ってきた。でも」
純、一同の顔を順番に見て、
純「今回は、私、他の誰でもない、私だけの
ために、もう1度、プロレスします」

112○トレーニングに励む純
河川敷でのランニング、ジムでの筋トレ、体育館でのスパークリングにいそしむ楓。

113○伊藤の自宅(夜)
携帯電話で純と話している聡。
伊藤「調子はどうよ」
純の声「ぼちぼち」
伊藤、封筒からチケットを取り出しながら、
伊藤「チケット届いたよ」
純の声「うん」
伊藤「今回は、期待していいんだな？」

114○ホテル・屋内(夜)
風呂上り姿の純。
純、子供の頃撮影した伊藤との写真を見ながら、
純「うん。良いもの見せるよ」

115○両国国技館・入口前広場
多くの観客で賑わう。
皆それぞれお気に入りの団体、選手のTシャツを着ている。

116○同・控室
武藤敬司(58)、内藤哲也(37)、オカダ・カズチカ(34)などの超一流選手が試合に向けて準備運動。
選手たちの中で、落ち着かない様子で時計を見ている山田。
コスチューム姿の楓がやってきて、
楓「純は？」
山田、首を振る。
楓「もう試合始まっちゃうよ」
山田、心配そうに周りを見渡す。

117○同・入場ゲート・外
純、キャリーケースを引いてやって来る。
その足取りは自信満々。

118○同・リング
前座試合の男女混合バトルロイヤルの最終局面。
ここあと紘子が、相撲力士とエプロンでやり合っている。
力士が突進して来て、ここあは場外に落とされるが、紘子は避けてロープを下げる。力士はバランスを崩して場外へ転落。
リングアナウンサー「勝者、紘子選手！！」
紘子は観客にアピールしながら、リングサイド席に座っている琴花を見つける。
激しく睨み合う両者。

119○同・バックステージ
トロフィーを持って戻って来る紘子とここあ。選手たちに称えられている。
山田がやってきて、2人に何か耳打ち。

紘子「え、メインに？」

１２０○同・控室

山田、楓、紘子、ここあが真ん中で座っている純を取り囲むように立っている。

紘子「メインに殴り込む？」

ここあ「正気？」

純「こんなこと、ふざけて言えない」

山田「しかし、どうやって入りこむつもりだ。カードはもう発表されているぜ？　選手の一存でむ無理やり変えられない」

山田、近くに貼ってあったポスターを指し示す。

ポスターでは、メインイベントとして、楓、オカダ、藤田組 vs 萌子、内藤、武藤の男女混合タッグマッチが紹介されている。

ここあ「どうやって入れ替わるの？」

純、無言で楓を見つめる。

楓、戸惑った様子で自分を指さし、

楓「私？」

１２１○同・会場内

リングアナウンサー、マイクをもってリング中央に１人立つ。

リングアナウンサー「ただいまより、本日のメインイベントを行います。青コーナーより、武藤敬司、内藤哲也、藤田萌子組の入場です」

武藤を先頭に、内藤、萌子が入場。

萌子は花道から客席の藤田に向かって手を振る。

一同はリングインしてポーズ。

リングアナウンサー「赤コーナーより、藤波辰爾、オカダ・カズチカ、立花楓　入場！！」

反対側の入場口から、藤波、オカダが登場。

しかし中々楓が出てこない。

１２２○同・バックステージ

スタッフが駆け回る。

スタッフ「立花楓選手！！　立花選手はいませんか？？」

１２３○同・女子トイレ個室

楓、便座に座り天を仰いで、

楓「あとは任せた」

１２４○同・会場内

場内には、ザ・ストームⅡのテーマソングが鳴り響く。

純、ザ・ストームⅡのマスクとコスチュームを身にまとって登場。

会場からは大ブーイング。

大ブーイングの中リングインする純。

他の選手たちは困惑している。

萌子は純を睨みつけている。

場内からは大「帰れ」コールが鳴り響く。

１２５○同・リングサイド席

琴花、リングの純を睨みつける。

山田がやってきて、琴花に向かって耳打ち。

山田「どうします？」

琴花「聞くまでもない。はやくほっぽりだせ」

山田「とは申しましても。ここまで部外者が勝手に侵入してきたとなると、団体と主催者の非を責められることもあるかと」

琴花、渋々といった様子で、

琴花「やらせろ」

山田、したり顔で頷く。

１２６○同・リング

リングアナウンサー「えー、会場の皆様にお知らせいたします。本日のメインイベントは、楓選手に代わりまして、ザ・ストームⅡ選手の出場となります！」

場内、大ブーイング。

純は顔色１つ変えずに萌子を睨みつける。

純の気迫を感じ、藤波と岡田はコーナーに下がる。

相手コーナーでは、萌子と武藤が下がり、内藤が先発を勝って出る。

気合を入れる純に向かって、

オカダ「おい、姉ちゃん。落とし前つけてくれよ？」

純、オカダに気を取られる。

その一瞬を見逃さずに内藤が強烈なドロップキックを炸裂。純は倒れる。
会場は大歓声。
内藤はそのままえげつないストンピングを連発。
内藤は純を自陣に引き込んで武藤に交代。
武藤は純にチョップを連発し、串刺し式のシャイニングウィザードを見舞う。
崩れ落ちる純。

１２７○同・客席
純がやられるたびに客席から。声援があがる
その様子を見て、笑顔の琴花。

１２８○同・リング
激しい技の応酬を受け、ぐったりしている純。
萌子が武藤と交代して入って来る。
萌子はにやにやしながら純の傍にゆっくりと近付き、
萌子「まだまだだよ、おばさん」
純、一瞬の隙をついて萌子の足を掴んでジャックナイフで丸め込む。
萌子はカウント２で返す。
萌子は驚きの表情で純を見る。

１２９○同・客席
ざわつく観客たち。
観客Ａ「まだやる気だぜ」
観客Ｂ「すごいな」
藤田、リングでひたすら耐える純の姿を見つめる。

１３０○同・リング
萌子は内藤にタッチ。
内藤は戸惑いながら入り、純に強烈なエルボーを見舞う。
純はふらつくが、倒れないでこらえる。
内藤はもう１発、２発と立て続けにエルボーを見舞うが、立ったままこらえる純。
内藤の顔を正面から見据え、雄たけびを上げて内藤にエルボーを返す。
内藤は笑顔を見せ、エルボーを返す。
純も返す。
エルボーの連打に内藤はコーナーに追い込まれる。
武藤が交代してリングイン。
純の足を掴んでドラゴンスクリューを狙う武者だが、純は同じ方向に体を回しでダメージを相殺し、エンズイギリを見舞う。
武藤はリングに倒れ込む。
純、何とかロープを使って立ち上がろうとする。
オカダ、自陣エプロンから手を伸ばし、
オカダ「ストーム、来い！」
純は何とか交代しようと自陣に這い寄るが、萌子が純を止める。
内藤と武藤がオカダと藤波を妨害。
その隙に萌子は純に垂直落下式ブレーンバスターを決め、余裕たっぷりにフォールする。
レフェリーがカウント。
レフェリー「１、２」
純、カウント３直前で肩を上げる。

１３１○同・客席
客席からはため息が漏れる。
伊藤、おもむろに立ち上がり、
伊藤「(絶叫)がんばれ、ストーム！！」
会場はそれをきっかけにストームコールに包まれる。
その様子に困惑するリングサイド席の琴花、萌子になにやら合図を送る。

１３２○同・リング
萌子、琴花の合図を受け取ると、首を掻っ切るポーズをして、
萌子「(観客に向かって)フィニッシュ！」
純をトップロープに乗せて、雪崩式の技を狙う。
純、ロープ上で抵抗し、萌子にパンチで反撃。萌子をマットに落とす。
大声援の中、純はトップロープからリングで大の字になっている萌子の位置を確認。
体を回し、大きく息を吸い込む純。

ムーンサルト・プレスを発射するが、
萌子に剣山で迎撃される。
腹部を抑えて悶えている純に対して、
対戦権のない武藤が乱入し、シャイニングウィザードを炸裂。
続いて内藤がデスティーノを決める。
それでもなお立ち上がろうとする純に、
萌子が強烈な膝蹴りを見舞う。
純は不自然な倒れ方をする。
萌子は倒れた純をフォール。
レフェリー「1、2，3」
萌子は勝ち名乗りを受けながら、こっそりとニー・サポーターから小さな鉄板を外す。
観客にアピールする萌子だが、会場は無反応。
リングサイドで控えていたレスラー達は、萌子を無視して倒れている純に集まる。
楓、こころ、紘子も純の傍に駆けつける。
純は周りのレスラー達に助け起こされ、よろよろと手を挙げる。
会場からは割れんばかりの拍手が起きる。
無視された萌子、イライラのあまり鉄柵を蹴飛ばしながらバックステージに下がっていく。
紘子がリングサイドからマイクを用意し、純に渡す。

１３３○同・観客席
盛り上がる観客の中、琴花が立ち上がり、山田に向かって、
琴花「あいつを止めろ！」
山田、苦笑いで頭を振る。

１３４○同・リング
純、マイクを手に会場を見渡す。
会場からは「ストーム」コールが巻き起こる。
純は何かを話そうとするがためらい、
にやっと笑って、
純「見たかお前ら！　プロレスは、最高なんだ！」
純、マイクを投げ捨てる。
観客は大盛り上がり。
呆気にとられた様子の楓たち。

１３５○同・リングサイド
琴花、呆然としたまま、倒れこむように椅子に座る。
山田は唖然としているが、
山田「まあ、あいつらしいか」

１３６○同・客席
泣きながら声援を上げている伊藤。
伊藤「ストーム！　ストーム！」

１３７○同・花道
純、レスラーに囲まれながら会場を後にする。
大歓声に手を挙げて応える。

１３８○都内・駅前
T「半年後」
多くの人が行き交う。
売店でスポーツ紙が販売されている。
見出しは「盟主失踪」と書かれ、琴花と萌子が両国国技館事件の偽装疑惑で身を隠したことが報じられている。

１３９○同・空き家
2、3人の作業員が引っ越し作業中。
純はその様子を部屋の隅で見ている。
女性のスタッフがやってきて、
女性スタッフ「純さん、そろそろ会見の時間です」
純、それにこたえて部屋を出る。
居間には大きく、「プロレスリング・ゴッデス」と書かれた看板が掲げられている。

（エンドロール後）
１４０○東京ドーム・外観

１４１○同・控室
純、コスチューム姿で静かに自分の出番を待つ。

会場から沸き起こる「ストーム」コールが少し漏れ聞こえる。
手には伊藤との写真。
リングアナウンサーの声「ただいまより、本日のメインイベント、ゴッデス世界女子選手権試合を行います。青コーナーより、挑戦者、ザ・ストーム選手の入場です！」
場内から割れんばかりの声援が聞こえ、ザ・ストームのテーマがきこえる。
純は息を吐く。
ノック音が聞こえ、純は控室を出ていく。
ザ・ストームのマスクはその場に置きっぱなし。
外から一際大きな声援が聞こえる。
（了）